

りそな Asia時事フラッシュ

2024年アジア通貨の注目ポイント

- 来年の欧米中銀による利下げが期待されている中、アジア通貨は増価の好機を迎えるだろう。一方、人民元は不動産業、バーツは観光業、ルピアは経常収支、ルピーは原油市況、ウォンは半導体市況次第で明暗が分かれそうだ。
- 共通のリスク要因として米国が順調に2%インフレ目標を達成できるかどうかである。

中国人民元:不動産業

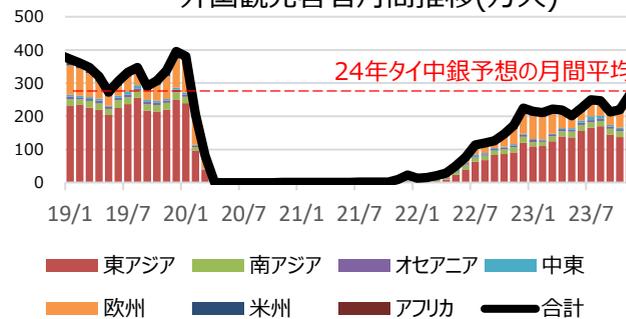
不動産投資 前年比(%)



- ◆ 不動産市況の冷え込みで中国経済・株に対する期待感も低下。今後、底練り中の不動産投資が保障性住宅建設、不動産会社への融資支援でプラス転換できるかは人民元のポイントになる。

タイバーツ:観光業

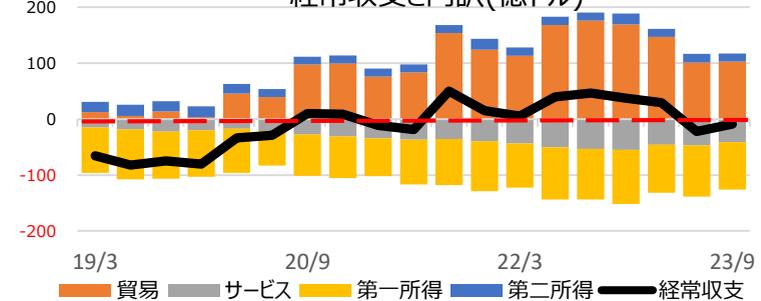
外国観光客者月間推移(万人)



- ◆ コロナ収束と国際往來の正常化に伴い、タイ観光業が徐々に回復。しかし、期待されたほど急回復が見られなかった。タイ中銀が24年の年間外国観光客数を3450万人(月間平均287.5万人)と予想。達成状況がバーツ相場を左右する。

インドネシアルピア:経常収支

経常収支と内訳(億ドル)



- ◆ 世界的な財需要の鈍化により、貿易黒字が縮小し、インドネシアの経常収支が赤字転落。資源国のイメージがまだ強いが、実は輸出の9割強が非石油・ガス。24年の世界財需要、企業在庫補充の動向次第、ルピアの強弱が決まる。

インドルピー:原油市況

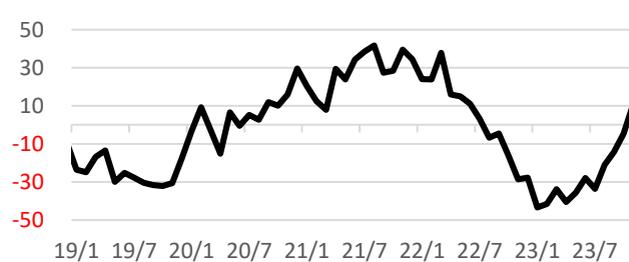
貿易収支と原油価格



- ◆ 貿易赤字に頭を悩ませているインドは原油の輸入依存度が高い。足元原油価格が落ち着いているが、良好な国内需要により、原油輸入が旺盛でルピーの重石に。今後、産油国の供給状況や中東情勢から目を離せない。

韓国ウォン:半導体市況

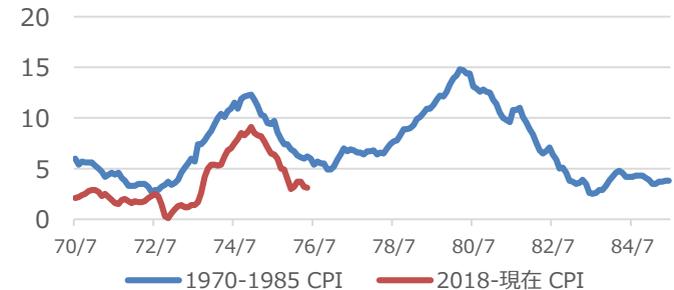
半導体輸出 前年比(%)



- ◆ 半導体サイクルがようやく底打ちし、改善の兆しが見られた。主要産業・輸出品である半導体が回復期に入れば、貿易収支の面からウォンは大きな恩恵を受けるだろう。半導体株上昇を狙う海外マネーによる資金流入も好材料になりやすい。

共通:米国インフレ

過去と現在のCPI前年比(%)



- ◆ 足元米国インフレが鈍化しているが、2%インフレまで距離がある一方、FRBがインフレ見通しでは楽観的な見方を持っており、金融政策でハト派に急転換。70年代のようにインフレが再燃することがリスク要因。 出所: Bloomberg, Haver

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。